



「病にかかり感じたこと」

福岡いのちの電話副理事長

濱 生 正 直

(学校法人九州聖公学園理事長, 牧師)



2013年5月の連休に孫たちがやって来ました。2歳の孫がわたしの首を触りながら、何度も「じーじー、どうしてここにこぶがあるの」と尋ねます。3カ月前から気になっていました。痛くもかゆくもないので、そのままにしていたのです。連休が明け、近くの耳鼻咽喉科の病院に行きました。医師は首を触っただけで、「大きな病院に行って診てもらってください」と言われ、紹介状を持って、九州大学病院に行きました。すると、「中咽頭癌です」と診断されました。入院、検査が続き、主治医から治療方法の説明がありました。「『摘出手術』か『抗がん剤と放射線の治療』の方法がある、どちらを選択するか」と決断を迫られます。「摘出手術をすれば、完全に癌は摘出されるが、声が出なくなる恐れがある」と聞かされます。声を出さず職業なので躊躇しました。最終的には、「抗がん剤と放射線の治療」、うまくいかないときは、「摘出手術」をするということになりました。厳しい治療だと聞いていましたが、大変なもので、体力が持たず、抗がん剤も放射線も途中で中断することになりました。特に、放射線では口の中が焼け、口と喉が火傷のようになり、物をのみ込むと激痛が走ります。のみ薬、注射、はり薬のモルヒネ併用で、精神的にまいってしまい幻覚を見るようになり、「せん妄」にかかりました。「死

ぬ」ということには、あまり恐れを感じていませんでした。しかし、「『死ぬ』ならば『家』で死にたい」という思いが異常に強かったようです。家に帰りた一心で病院中を徘徊し、何度も病院を脱出しようとしてしました。病院にとっては厄介者であったようです。

そんなわたしが「生きなければ」という思いになったのは、わたしが関係しています幼稚園の、子どもたちが書いてくれた手紙や折ってくれた千羽鶴でした。小さな手を合わせ、毎日お祈りしてくれている子どもたちのことを知らされると、「こんなわたしでも必要とされているのだ」と気づかされ、その子どもたちにちゃんと応えなければと思うようになります。そこから、「死んでもいい」という気持ちから、「生きていこう」という気持ちになったようです。

人は受け入れられ、必要とされていると感じるとき、生きる力が湧き出てくるようです。「いのちの電話」で多くの人が、「わたしは受け入れられていない」「必要とされていない」と訴えてきます。でも、少なくとも相談員は、「わたしはそうではない、あなたを受け入れていますよ」と言い続けていくのが「いのちの電話」のミッションではないかと思えます。

「福岡いのちの電話」は24時間年中無休ダイヤルです

(092)741-4343

毎月10日はフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」を実施

0120-783-556

メールによる「インターネット相談」は <http://www.inochinodenwa.org/soudan.php>

第3回全体研修 (フリーダイヤル研修)

2017年11月18日(土) 午後2時から午後4時まで

福岡市健康づくりセンター10階講堂

テーマ「自殺念慮の強い相談者への対応について」

講師：本田洋子氏(福岡市精神保健福祉センター所長, 医師)

本田洋子氏は、前職の福岡大学病院では救急外来を担当され、自殺未遂搬入者の診療を多く手がけてこられました。その経験を踏まえ、講義と演習(ロールプレイング)をしていただきました。



第3回 全体研修の様子

講義では「上手なストレス対処とは」で、ストレスの初期症状と対策としてマイナスに作用する癖を無くし、セルフケアや支援ネットワーク(手段的・情緒的)を持つことが大事だと強調されました。

自殺念慮は「死にたい」と「生きたい」の気持ちが絶えず揺れ動いており、「死にたい」へ大きく傾いたとき、実行される。自殺は多くの原因が重なりあっているが、そのときの心理は視野狭窄状態であるとのことでした。

自殺念慮を告白されたときの対応が具体的にTALK(トーク)の原則として示されました。Tell(心配していることを伝える)、Ask(死にたくなる思いを率直にたずねる)、Listen(今までの経緯など気持ちを聴く)、Keep Safe(1人にしないなど、安全を確保する)。また、支援者の健康も大事であると話されました。

うつ症状等についても専門的に話され、自殺念慮の強い方からの相談をロールプレイングとして相談員3人1組で行いました。

全体研修を受けての感想

先日参加した自殺予防研修では、2つの事例を基に3~4人のチームでロールプレイを実施しました。ロールプレイは個人的には苦手ですが、少人数ということもあり、とても勉強になりました。日頃のスーパービジョンでは事例を皆で検討していますが、各自がその役を演じ

てみると、改めて新しい気付きなどもあり、また自分の欠点が見えたりすることがわかり、ロールプレイの必要性を感じさせられた研修でした。

自殺予防では、まだ記憶に新しい座間市の痛ましい、凄惨な事件が思い出されます。国においても自殺に対する対策が取り組まれている中、今回のようなSNSでの書き込みがきっかけとなり、結果的に残忍で自分勝手な犯人の手で殺されるという事件が起きてしまいました。被害に遭われた方々は、死を本当に考えていたのだろうか、自分の身の上話を聴いてほしかっただけではなかったのか、さまざまな要因が重なり生きることがしんどくなって、引き金となって「死にたい」と自殺を考えた人たちだったのではないかと。周囲の誰かに相談できる環境が無かったのだろうか。なぜ気付かなかったのかとよく耳にしますが、少なくともそこで気付いていたら未然に防げたことが、数多くあるのも確かだと思います。

相談員として「いのちの電話」に関わらせていただき、寄り添い、傾聴することの大切さを痛感しています。今の苦しい、思い悩んでいる心情を「人に話す」=「吐き出してみる」。ほんの少しかも知れませんが、そのことで気持ちが楽になり、思いとどまっていただけだと願っています。(Y. H)

アンケートより感想を抜粋

- ・「死にたい」と「生きたい気持ち」が揺れ動くとき、いのちの電話は生きたい気持ちに引き寄せるところだとの講師の言葉に、本当にその通りだと思いました。
- ・自殺大国といわれるが、自殺は個人の問題ではなく社会的な背景があると思います。若者が自殺に追い込まれる日本の社会的価値観などについても聞きたかったです。高齢者の自殺についても同様。
- ・改めて「傾聴」、言葉の「繰り返し」、問題の「明確化」の大切さを思った。「死にたい」といわれたときに返す「魔法の言葉はない」という言葉はその通りだと思う。

電話ボランティアの認定を受けるまで

「福岡いのちの電話」では毎年4月にボランティアの募集を行っています。応募締切は8月末日です。締切後、書類審査と面接を行います。2017年は10月4日（水）に第43期養成講座の開講式が行われ、15名が臨みました。



第43期 養成講座開講式後の林幹男理事長による講演

養成期間はパート1、パート2があります。パート1は2018年8月初旬までで、16回の座学と5回の演習（ロールプレイング）、2回の宿泊研修があります。その後面接を経て8月下旬からパート2へと進みます。この

期間は実際の電話応対を行う実習となっています。約1年の実習の間に、電話ボランティア員認定のためのスーパービジョンを受けて研修します。ただいま42期生が実習中です。認定を終えると、閉講式をかねて



第43期生 宿泊研修

「ボランティア委嘱状授与式」が行われます。第41期生は2017年9月4日に委嘱状を手に入れました。

「福岡いのちの電話」では、新規生のための「養成サポーター」制度があります。研修を受けた養成サポーターが養成講座の進行、演習（ロールプレイング）の進行を担当します。また、受講生への配慮を心がけ、実際に電話を取り始めての心理的技術的ケアを行っています。

◆パート2で電話実習を始めての感想

電話ボランティア員として実際に現場に入って3ヵ月。42期生14名が久しぶりに顔を合わせ、悩みや問題点を共有しました。

養成講座時のロールプレイングとは違い、自殺念慮の方や精神的な疾患などを抱えている方との緊迫した対応をはじめ、性的ないたずら目的でかけられたり、ボランティア員の個人情報聞き取ろうとされたり、また、身に覚えのない誹謗中傷を受けた体験談などを聞き、さまざまな内容の電話相談に応じなければならない難しさを感じました。

同じ境遇で頑張っている同期生をはじめ、養成サポーターや諸先輩方のフォローにとっても励まされています。

そして、改めて気づかされたことは、電話で受けた内容を持ち帰らないことと、どのような理解できない相談であれ、通話者と同じ目線に立ち、謙虚な姿勢で傾聴することの2つです。

実際に活動している相談員の数が減っている中、早く一人前の相談員としてお役に立ちたいと思います。そのためにも、これから半年間をかけて3回の認定スーパービジョンをクリアし、全研修を終えることができるよう頑張ります。

(T. A)

◆ボランティア認定を受けての感想

1年間の座学の研修を終え、昨年10月からおよそ100件の電話相談を経験し、9月に正式に相談員の認定を受けました。

相談活動の実際を知るにつけ、このような機関が全国にあり、組織的な取り組みを行っていることに驚き、無縁社会と言われる現代においてさえ、小さなボランティアの力が集まって、辛うじて世の中の温かさが保たれているのだなあと感じます。

相談を受ける時には、「せめてこの会話の間だけでも、ホッとしてほしい」と願って聴くことに徹し、「友達とくつろいで電話している気分になってほしい」と、穏やかな言葉を探します。そして数本の相談を受けた後、家路につく頃には、「他人の相談を受けながら、私は家族に寂しい思いをさせてはいないだろうか？」という思いが胸に湧き上がります。その気持ちを胸のどこかに置きながら月2回の次の電話担当までの時間が過ぎていきます。

ニュースでは座間市の9人殺害事件が大きく報じられていました。若者たちの「死にたい」、その裏側にある「助けて」という言葉を私たち大人はどう受け止めればいいのか。そんな若者が今度電話をかけてきたら、私はどんな言葉を発するのでしょうか。さまざまに考えながら、また電話に向かいます。

(H. A)



ムーミンの国のダイアログに学ぶ

昨年の9月から1年間、イギリスのノッティンガム大学に客員研究員として滞在しました。その間、オープンダイアログの視察研修のため、フィンランドを2度訪れました。オープンダイアログは、ヘルシンキよりも北のラップランド地方にある病院で生まれた、主に急性期の精神病患者さんを対象とした早期介入のアプローチです。そこでなされることはまさに「開かれた対話」。その対話によって患者さんの入院期間が短縮されたり、投薬の量が減ったり、予後が良いという結果が見出され、今世界中から注目されています。

オープンダイアログでは、患者さんの「モノローグ（独白）的」語りを「ダイアログ（対話）的」語りにしていくことを大事にしています。対話を通して、患者さんの中だけで完結し未だ語り得なかった体験を、他者と共有可能な言語表現にしていくのです。さらに興味深いのは、この対話は何かのための手段なのではなく、対話そのものが目的であることです。オープンダイアログの実践者たちが口々に言うのは、「不確実性への耐性 Tolerance of Uncertainty」という言葉です。時に対話がどういう方向へ行くのか、果たして良い終着点が見つかるのか、よく分からないことがあります。先の見えなさに不安な気持ちになったりもします。しかし彼らはすぐに助言したり、結論を急いだりせず、患者さんと共に不確実さを生きるのです。それを支えるのが、まさにその場の対話の質を高めていこうとすること、それ自体なのです。

オープンダイアログの考え方を学んだとき、私の心に「いのちの電話」の相談員の皆さんの日々の活動のことが思い起こされました。匿名での一期一会の関係の中で、助言をするわけでもなくただ通話者の話に耳を傾ける、そこに一体どんな意味があるのだろうか

思うことも、時にはあるかもしれません。しかし、電話をかける前は「一人語り」でしかなかった通話者の思いが、相談員の皆さんの関わりによって「対話」になっていくということ、そして通話者が自分の思いを聴いてもらったと感ずること、その偉大さに改めて思いを寄せるのです。やはり私たちは、電話の先につながっている通話者との対話をより良いものにしていこうと努力すること、それに尽きるのではないのでしょうか。オープンダイアログの思想からは、「相手を変えたい、コントロールしたい」と思う気持ちを横に置き、対話によって相手を理解すること、まだ語られていなかった思いを共有していくことの重要性に立ち返ることができます。

援助と理解については、デンマークの哲学者、キルケゴールの支援術の中にあるこの言葉に出会いました。「他の人を助けるには、その相手をより多く理解する前に、まずは相手が理解していることを、私は理解しなければなりません。謙虚な気持ちで関わり、相手を支配しようとするのではなく」。援助とは、外側からの客観的理解ではなく、本人の内側にある主観的体験をまずは理解するところから始まるということでしょう。私は傾聴についてずっと学んできましたが、学びの道のりはまだまだ続いていきそうです。





2017年 自殺防止公開講座

ちょっと待って!?
思いとどまってもらうために
「食べることは生きること」

5歳の愛娘はなちゃんを残して33歳という若さで早逝した、講師安武氏の妻千恵さんは、「調理技術は一生の財産、勉強は二の次でいい」という言葉とともに、亡くなる一年前からはなちゃんに台所仕事を教え始めます。その様子がいきいきと映像で紹介されました。



次に、2001年、香川県滝宮小学校の竹下和男校長が始めた「弁当の日」の取り組みが詳しく紹介されました。「弁当の日」は月に1回、5、6年生を対象に、子どもが献立から買い出し、調理、弁当詰めまで全て手がけるというもので、保護者や教師の反対を押して始められました。ところが始めてみると、子どもたちは実に素晴らしい弁当を作るようになります。自分が作った弁当を満面の笑顔で見せ合いますが、親が作った弁当の子はこそこそ隠れて食べます。そして次は自分でと考えます。弁当作りの苦勞がわかり、親や給食調理員に思いを向ける子が増え、食べ残しもいじめも減ってきたそうです

猛勉強して音楽教師の夢をかなえたのに、25歳でがんに罹患しリタイアせざるを得なくなった千恵さんだから、「勉強は二の次」の言葉を語らせたと安武氏。千恵さんの葬儀が終わり、安武氏は落ち込みますが、それを救ったのがはなちゃんのみそ汁でした。千恵さんと約束した役割分担をはなちゃんが紙に書いて貼り出し、お父さんの朝食を作って一緒に食べたとき、こんなうまいみそ汁は生まれて初めだと感じたとのことでした。そのみそ汁で目が覚めた安武氏は、改めて「食

日時 10月21日(土) 午後2時30分
場所 TKPガーデンシティ天神
主催 福岡いのちの電話/朝日新聞厚生文化事業団
講師 安武 信吾 氏
講師プロフィール

若宮市出身。1988年西日本新聞社に入社し、2015年から編集委員。西日本新聞で連載「はなパパの食べることは生きること」を執筆。

「食べることは生きること」を実感したと言います。最後は家族3人の思い出と、千恵さん自身が歌う一青窈の「はなみずき」がスライドショーで紹介され、講演が締めくくられました。

— アンケートでの感想から —

- 子どもの弁当作りで、家庭が変わり、地球が変わる。これって、いったいどういうことでしょうか。子どもに生きる力をつけてもらう、主体性をもってもらうことが、世の中が変わることなんだなと思いました。素敵な話でした。
- 味噌汁と自殺予防と生きること。何を言いたいのだろうと最初は思いました。参加して、意味がわかりました。とてもよかったです。
- 料理を作ることは、また、作れることは直接生きることなんだと、あらためて思った。竹下先生の弁当の日の取り組みはすばらしかった。
- 自分の最後をきちんと考え、行動に移されたことの力強さに心打たれました。私も子どもに一人で生きていけるよう、たくさん話をして、いろいろなことを伝えていきたいと思います。子どもが生まれた時は五体満足であったことに喜んでいたのに、次から次に欲がでて、あれもこれもと…要求ばかりだったように思いました。



◆九州地区事務局担当者会議・研修担当者会議が開催

「大分のちの電話」のお世話で、大分市(ホルトホール大分)において「いのちの電話」第12回九州地区事務局担当者会議が2017年12月2日(土)、3日(日)に、同研修担当者会議が3日(日)に行われました。大分、北九州、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄、福岡の各センターから35名が参加しました。

両会議は2年ごとに開催され、情報交換や課題の共有などが行われています。事務局会議では、相談員の確保、深夜担当者の確保、運営資金の確保などが各センターの深刻な課題であることが確認されました。研修担当者会議では養成講座について、スーパーバイザー確保などが主な議題となりました。

次回は2019年に鹿児島で行われます。また、同じように隔年で行われる「九州地区いのちの電話相談員ワークショップ」は2018年9月に「第17回北九州大会」として、2日間にわたり基調講演、分科会が予定されています。(写真は会議の様子)



ご援助ありがとうございます

寄附感謝報告 2017年9月1日～11月30日（敬称略・順不同）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。

千人会

荒木泰邦(荒木歯科医院)	10,000
大西純一	10,000
匿名	10,000
宮岡達也(宮岡皮膚科)	10,000
匿名	10,000
金子英次	10,000
大島義太郎(尙大島設計)	10,000
(医)藤見内科医院	10,000
山名敏子((医)山名としこ眼科)	10,000
川谷大治(川谷医院)	20,000
(医)三裕会 拾六町病院	10,000
久保千春	10,000
梅野英輔((医)梅野小児科内科医院)	10,000

溝上敦子	10,000
中村幸泰((医)ひのでクリニック)	10,000
野田尚武	10,000
小林恒善	10,000
高口秀夫((医)高口歯科医院)	10,000
野島一彦	10,000
専宗寺 佐野玄秀	20,000
牛島 進((医)健進会 牛島歯科医院)	10,000
中村宰久	10,000
濱 孝明	10,000
真正寺	10,000
杉本導治(杉本歯科医院)	10,000
福岡聖パウロ教会	10,000
西林寺(安武義純)	10,000

本山智敬	10,000
林 幹男	20,000
匿名	10,000

賛助会

山下那賀子	5,000
江口祐子	5,000

寄附金

SFC	2,457
旗島淑子	10,000
金子英次	10,000
山城千尋	10,000
田上文蔵	10,000

ライオンズクラブの皆さまの、長年のご援助に感謝します

「福岡いのちの電話」は、市民活動として電話ボランティアをはじめ、資金面においても、市民、団体、事業所、行政の皆さまから多くの援助をいただいて活動しております。

なかでも、設立当初より、福岡に拠点を置く各ライオンズクラブ様には継続的に資金面での援助をいただいております。とりわけ、福岡鶴城ライオンズクラブ、福岡北ライオンズクラブ、福岡城東ライオンズクラブ、福岡文化ライオンズクラブ様には毎年多額の寄付を頂戴しておりますことをご紹介させていただきます、あらためて感謝申し上げます。



福岡城東ライオンズクラブ主催「第35回いのちの電話支援チャリティゴルフ大会」で第4ホールに設置された支援箱



木上勝征(弁護士)	10,000	野島一彦	20,000	木内多美子	50,000
井上仁人((医)井上内科医院)	10,000	貞池龍彦	3,000	倉成太郎	10,000
杉本 登(杉本歯科医院)	10,000	乙藤秀臣	10,000		
平塚 敏((医)平塚医院)	10,000	大木 實(大木整形・リハビリ医院)	10,000		
植田治夫	2,000	金丸みはる((医)かねまるウイメンズクリニック)	10,000		
田中公也	10,000	中津弘子	1,000,000		
成道寺 佐藤隆昭	10,000	井上幸一	10,000		
家入浩二(家入歯科医院)	10,000	真鍋順子	10,000		
阿利澄雄	10,000	勝木昭代	1,000		
藤田宗春	10,000	執行好子	20,000		
岡田修一	10,000	島松昌由(島松循環器内科クリニック)	10,000		
㈱吉塚酒店	10,000	福岡聖パウロ教会	10,000		
高岸智也(高岸小児科医院)	10,000	松尾公孝	50,000		
岩永安弘	10,000	福岡城東ライオンズクラブ	400,000		
龍 忠史	3,000	佐藤好史	10,000		
(宗)専立寺	5,000	匿名	3,000		
金藤哲明(金藤歯科医院)	10,000	林 幹男	80,000		

法人会

㈱愛しとーと	30,000
西部ガス㈱	200,000
㈱九電工	100,000
西日本鉄道㈱	100,000

コカ・コーラ支援自販機

勸業愛団(九州大学病院内)	103,350
㈱西日本新聞社(本社)	47,960
㈱西日本新聞社(製作センター)	18,137
西部ガス㈱(パピヨン24内)	127,292
南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	39,328
㈱ダイキ通信工業(自社内)	24,570
㈱福岡住宅センター (鳥飼1丁目パーキング)	7,097

ご寄附は下記の振込先までお願いします

銀行口座：口座名義＝社会福祉法人 福岡いのちの電話
 福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617
 西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458

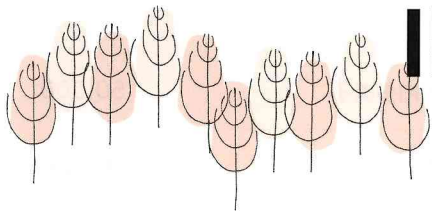
郵便口座：福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652
 福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)
 賛助会 1口2千円/年(〃)
 法人会 1口3万円/年(〃)

ご面倒をおかけいたしますが、よろしくごお願い申し上げます。

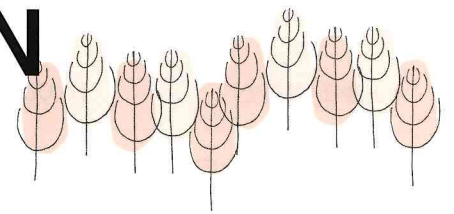
税制の優遇措置があります

社会福祉法人の認可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌

2017.9.1~11.30

9月

- 1 第41期生養成講座閉講式
- 2 自主研修「ケースと私・事例研究」
- 3 北九州いのちの電話40周年記念式出席
- 6 受信資料検討班会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12 手づくり会
相談活動運営委員会
- 13 広報活動班会
研修運営班会
- 16 インターネット相談員養成OJT
(講師：横田和子氏)
- 20 第6回教育委員会
インターネット相談コーディネーター会
- 21 社会資源班施設訪問
(福岡市立ひとり親家庭支援センター)
- 26 手づくり会
事務局会議
相談活動運営委員会
- 29 第6回理事会
「ハートフルフェスタ福岡2017」講演会
- 30 相談員集会

10月

- 2 「ハートフルフェスタ福岡2017」交流会
- 4 第43期生養成講座開講式
(講師：林幹男氏)
- 6 福岡市自殺対策協議会出席

- 7 自主研修「ケースと私・事例研究」
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
手づくり会
- 12 自主研修「FINDカフェ」
- 14 インターネット相談員養成OJT
(講師：西川一臣氏)
- 18 受信資料検討班会
第43期生養成講座(講師：瀬里徳子氏)
- 19 福岡城東ライオンズクラブ
「福岡いのちの電話支援チャリティゴルフ大会」協力
第7回理事会
- 21 社会資源研究班会
自殺防止公開講座(講師：安武信吾氏)
- 24 手づくり会
事務局会議
相談活動運営委員会
- 25 第7回教育委員会
広報活動班会
- 28 福岡いのちの電話開局33周年記念日の集い
- 30 会報企画会議

11月

- 1 第43期生養成講座(講師：山崎一馬氏)
- 7 手づくり会
- 8 研修運営班会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」

- 広報活動班会
- 14 手づくり会
相談活動運営委員会
- 15 受信活動検討班会
第43期生養成講座
(講師：林幹男氏)
- 16 自主研修「FINDカフェ」
- 17 社会資源研修班施設訪問
(福岡市子ども総合相談センターえがお館)
- 18 自主研修「ケースと私・事例研究」
第3回全体研修(フリーダイヤル研修)
(講師：本田洋子氏)
- 20 第42期生3ヵ月ミーティング
- 21 曜日班世話人会
- 22 リーんりん101号発行
ネット相談新システム認定者
ミーティング
- 25~26 エリアインターネット相談員養成研修(第2回)東京
第43期生養成講座宿泊研修
「人間関係訓練 I」
(講師：岡田健一氏)
- 27 第8回理事会
- 28 事務局会議
手づくり会
クリスマス献金お願いカード作成
- 29 第8回教育委員会
福岡市自殺対策協議会出席

【編】集【後】記【】

年の初めは何かしら背筋を伸ばしたくなるような、清々しい、凜とした雰囲気を感じます。

昨年は、「村度」という言葉が巷を賑わせました。どうも悪い印象が先に立ってしまいましたが、本来は決して悪い意味ではなく、相手の立場や事情を斟酌して、思いやりの心で率先して行動を起こすことを表現したもので、豊かな成熟した人間関係に欠かせない気配りではないかと思えます。

ただ、電話での応対ではこの「村度」は要注意ではないかと感じています。言われた言葉を字句通り受け取って先読みしたり、相手のことを自分の価値観で勝手に判断するのはいかがなものかと思えます。電話の向こうから紡がれた言葉の背後に、本人のどのような気持ちが隠されているのか、その人の深い心の思いが言葉となって語られているのだろうか、ひょっとしたらこちらで違う像を勝手に結んでしまっているのではないかと。今回の心に沁みるような本山先生の「リレー随想」に、我が身を反省することしきりです。その思いを抱きつつではありますが、24時間365日眠らない、「福岡いのちの電話」を今年もどうぞよろしくお願いいたします。
K・S

2017年9月～11月

電話受付件数

受付件数	3,293件
延べ相談員数	1,009人
延べ受信時間	180,294分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7-2F
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス
<http://www.f-inochi.org/>

発行人 林 幹男
編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。